



公明党

質問者

さいとうかずのぶ 齋藤一信 議員

所属議員

おおもとくにみつ 大本邦光 議員



笠岡市の人口対策の今後は

議員 総務省の資料によれば、笠岡市には昨年、今までにない急激な人口流出の傾向が見てとれる。29年度の人口動態の中間報告とあわせて、この現状をどう分析し、対応するのかたずねる。

税の取り組みについてたずねる。

産業部長 企業の方に、笠岡の人のため使えるものに寄附をしていただくという形を笠岡市も考えている。そのためには、まち・ひと・しごと創生寄附活用事業を企画し、内閣府へ申請するという手続がある。そのことも踏まえて、中身を充実させ、御賛同いただける企業を増やしていきたい、そしてこの寄附をいただきたいと思っている。

政策部長 社会動態で非常に大きな幅で笠岡市が人口減少していることは、執行部としても非常に大きな危機感を持って受けとめている。定住促進本部を開き情報の共有をするなど、これからどのような取り組みでいくか考えている状況であり、広域連携の中での定住促進というのも一つのあり方だろうと思っている。

企業版ふるさと納税の取り組みは

議員 笠岡市の企業版ふるさと納

議員 まち・ひと・しごと創生総合戦略の中間年は非常に大事な年となる。人口対策は5年、10年見ないとその結果が図れないということも確かだろうし、毎年の計画チェックが重要になってくる。ぜひ有効な人口対策に一層取り組んでいただきたい。



徳清会

質問者

おおやまもりひさ 大山盛久 議員

所属議員

くりおしゅんそう 栗尾順三 議員

もりおかさとこ 森岡聡子 議員

うまこしゅうせい 馬越裕正 議員

にしなふみひで 仁科文秀 議員

ひがしかわさぶろう 東川三郎 議員

2年後半に向かう市長の政治姿勢は

議員 市制施行以来、初めての民間出身市長として、民間の発想・考え方を行政に取り入れ、笠岡を変えろとの意気込みでスタートした小林市政。一期目4年間の2年後半に向け、市政に取り組む市長の政治姿勢をたずねる。

り、合意形成に至るといいうプロセスを大切にしてまいりたい。

小中一貫校の今後の可能性は

議員 義務教育9年間を通した計画的・継続的な学力や学習意欲の向上、教員指導力の向上など教育の質の向上が期待できるとする小中一貫教育について、将来に向けた可能性をどう考えているのかたずねる。

市長 私は市の施策はブドウの房のようなものだと思う。一粒一粒が生き生きと輝いていなければ、全体の価値が下がってしまう。子育て支援や教育、企業誘致、雇用、高齢者のケアなど、全ての施策が生き生きとした粒になって初めて笠岡が魅力的な街になる。房を生き生きとよみがえらせるため、取り組みを進めるに当たっては、議員の皆さまを初め、市民の皆さまに一つ一つ丁寧に説明し、対話を重ねることで相互理解を図

教育長 笠岡市において、こうした小中一貫教育をどのように推進していくかは、十月上旬に立ち上げる審議会において協議していただく。審議会からは、最終的に笠岡市全体の小中一貫教育のあり方について答申していただき、それをもとに将来を見通した笠岡市の小中一貫教育推進計画を立てていく。

